

Ⅲ 循環型社会の形成

1 清掃事業の概要

(1) 循環型社会の形成に向けた取組

ごみの問題は、中間処理施設の処理能力の限界や最終処分場の残余量の問題であるばかりでなく、今や環境問題として社会的に深刻であり、重要な行政課題となっています。また、資源の保護や環境保全の面からも重要な課題です。少しでもごみを減らすためには、どうしたらよいか、どのような暮らし方が環境への負荷を少なくするのか、市民・事業者・行政が連携し懸命になって取り組んでいかなければなりません。

従来的大量生産、大量消費、大量廃棄型の社会構造は、私たちに多くの恩恵をもたらしましたが、一方で生産、流通、消費、そして廃棄物処理の各過程において多くの資源・エネルギーを消費し、多大な環境負荷をもたらしています。

小平市ではこれまで、ごみの適切な処理とリサイクル推進を主要な課題として取組を進め、市民と事業者の協力の下、資源物の分別収集を全市で実施し、リサイクル率を高めてきました。その結果、ごみの処理量は減り、その分多くの物を資源として再利用することができるようになりました。

しかし、ここ数年ごみと資源物の総量はほぼ横ばいの状態が続いています。

小平市は、平成 31（2019）年 4 月 1 日から実施している家庭ごみ有料化及び戸別収集など、廃棄物の発生抑制を最優先に掲げた施策を実施するとともに、生ごみを食物資源として循環させる事業や全量プラスチック製容器包装の分別収集・資源化、事業系ごみの排出指導、新たな分別収集、資源化の検討、中間処理施設の更新など、さまざまな課題について取り組んでいます。

これらの課題等にさらに取り組むために、市では、廃棄物の減量と処理に係る事業の根幹となるものとして、平成 25（2013）年度に「小平市一般廃棄物処理基本計画」を策定し、平成 29（2017）年度に中間見直しを行いました。この計画に基づいて、循環型社会の形成に向けた取組を行っています。

(2) 清掃費の推移

① 清掃費財源の年度別推移（決算額）

清掃費は小平・村山・大和衛生組合の新施設の整備（更新）などによる負担金の増加により、増加傾向で推移しています。

【清掃費財源の年度別推移（決算額）】

（単位：千円）

年度	一般財源	ごみ処理 手数料	し尿処理 手数料	雑排水 手数料	国・都 補助金	基金 繰入金	その他	合計
2015	1,977,930	136,696	10,455	104	402,706	178,776	0	2,706,667
2016	2,021,405	138,171	12,450	15	419,110	173,654	0	2,764,805
2017	2,153,258	141,514	9,752	0	432,860	171,280	18,495	2,927,159
2018	2,779,299	171,975	7,794	0	421,778	235,141	819,300	4,435,287
2019	2,049,542	714,061	10,583	0	421,700	178,809	42,505	3,417,200

※端数処理のため、誤差が生じることがあります。

【ごみ減量・リサイクル推進基金への積立額の推移】（単位：千円）

年度	積立額	年度末 現在額
2015	151,267	491,537
2016	149,771	467,654
2017	172,437	468,811
2018	159,419	393,089
2019	126,579	346,859

②清掃費の年度別推移（決算額）

（単位：千円）

年度	総務費		清掃事務所 管理費		塵芥処理費		し尿処理費		リサイクル 対策費		歳出額合計	
	決算額	%	決算額	%	決算額	%	決算額	%	決算額	%	決算額	%
2015	110,242	4.1	1,507	0.1	2,040,819	75.4	57,227	2.1	496,872	18.4	2,706,667	100.0
2016	111,717	4.0	928	0.0	2,087,771	75.5	55,506	2.0	508,883	18.4	2,764,805	100.0
2017	141,185	4.8	903	0.0	2,159,587	73.8	55,968	1.9	569,517	19.5	2,927,159	100.0
2018	153,862	3.5	0	0.0	2,396,106	54.0	54,533	1.2	1,830,786	41.3	4,435,287	100.0
2019	121,214	3.5	0	0.0	2,650,319	77.6	54,738	1.6	590,929	17.3	3,417,200	100.0

※端数処理のため、歳出額合計に誤差が生じることがあります。

③令和元（2019）年度予算額

一般会計総予算額	66,346,000千円
清掃費総予算額	3,510,140千円
一般会計に対する割合	5.3%

注) 当初予算ベース

④部門別処理原価

ア ごみ処理原価

2017年度処理量		38,585 t				
	収集部門	中間部門	最終部門	計	t 原価	
人件費	78,683千円			78,683千円	2,039円	
経費	795,332千円	863,044千円	504,880千円	2,163,256千円	56,065円	
減価償却費	272千円			272千円	7円	
計	874,287千円	863,044千円	504,880千円	2,242,211千円	58,111円	
t 原価	22,659円	22,367円	13,085円	58,111円	前年度比較	4.9%増

2018年度処理量		40,601 t				
	収集部門	中間部門	最終部門	計	t 原価	
人件費	85,866千円			85,866千円	2,115円	
経費	984,586千円	919,105千円	495,392千円	2,399,083千円	59,089円	
減価償却費	272千円			272千円	7円	
計	1,070,724千円	919,105千円	495,392千円	2,485,221千円	61,211円	
t 原価	26,372円	22,637円	12,201円	61,211円	前年度比較	5.3%増

2019年度処理量		33,067 t				
	収集部門	中間部門	最終部門	計	t 原価	
人件費	66,500千円			66,500千円	2,011円	
経費	1,167,812千円	987,478千円	499,047千円	2,654,337千円	80,271円	
減価償却費	0千円			0千円	0円	
計	1,234,312千円	987,478千円	499,047千円	2,720,837千円	82,283円	
t 原価	37,328円	29,863円	15,092円	82,283円	前年度比較	34.4%増

イ 資源物処理原価

2017年度処理量		11,772 t		
	収集部門	中間部門	計	t 原価
人件費	39,341千円	9,835千円	49,176千円	4,177円
経費	20,481千円	489,380千円	509,861千円	43,311円
減価償却費	136千円	9,013千円	9,149千円	777円
計	59,958千円	508,228千円	568,186千円	48,266円
t 原価	5,093円	43,173円	48,266円	前年度比較 3.0%増

2018年度処理量		12,701 t		
	収集部門	中間部門	計	t 原価
人件費	42,933千円	10,733千円	53,666千円	4,225円
経費	19,631千円	1,811,374千円	1,831,005千円	144,162円
減価償却費	136千円	9,013千円	9,149千円	720円
計	62,700千円	1,831,120千円	1,893,820千円	149,108円
t 原価	4,937円	144,171円	149,108円	前年度比較 209%増

2019年度処理量		13,058 t		
	収集部門	中間部門	計	t 原価
人件費	33,250千円	8,313千円	41,563千円	3,183円
経費	21,665千円	569,924千円	591,589千円	45,305円
減価償却費	0千円	74,047千円	74,047千円	5,671円
計	54,915千円	652,284千円	707,199千円	54,158円
t 原価	4,205円	49,953円	54,158円	前年度比較 64%減

ウ 下水処理原価

※2017年以降は処理なし。

エ し尿処理原価

	収集部門	中間部門	最終部門	計	kl 原価
人件費	9,835千円	—	—	9,835千円	28,757円
経費	26,466千円	—	29,563千円	56,029千円	163,827円
減価償却費	0千円	—	—	0千円	0円
計	36,301千円	0千円	29,563千円	65,864千円	192,585円
kl 原価	106,143円	0円	86,442円	192,585円	前年度比較 38.8%増

2018年度処理量		265.8 kl (し尿+汚泥)			
	収集部門	中間部門	最終部門	計	kl 原価
人件費	10,733千円	—	—	10,733千円	40,380円
経費	—	—	28,305千円	28,305千円	106,490円
減価償却費	—	—	—	0千円	0円
計	10,733千円	0千円	28,305千円	39,038千円	146,870円
kl 原価	40,380円	0円	106,490円	146,870円	前年度比較 23.7%減

2019年度処理量		383.2 kl (し尿+汚泥)			
	収集部門	中間部門	最終部門	計	kl 原価
人件費	8,313千円	—	—	8,313千円	21,694円
経費	0千円	—	28,158千円	28,158千円	73,481円
減価償却費	0千円	—	—	0千円	0円
計	8,313千円	0千円	28,158千円	36,471千円	95,175円
kl 原価	21,694円	0円	73,481円	95,175円	前年度比較 35.2%減

⑤ごみ処理量と資源化量の推移

品目	2015年度		2016年度		2017年度		2018年度		2019年度			
①人口（人）	188,576		189,955		191,064		193,588		194,941			
②燃やすごみ												
年間排出量（t）	収集 持込	合計	29,249 3,864	33,113	29,055 3,937	32,992	28,887 4,033	32,920	29,414 4,271	33,685	26,804 4,118	30,922
一人1日あたり排出量（g）			479.8		475.8		472.1		476.7		433.4	
対前年比（%）			0.1%		-0.4%		-0.2%		2.3%		-8.2%	
③燃やさないごみ												
年間排出量（t）	収集 持込	合計	4,592 241	4,833	4,463 235	4,698	4,371 215	4,586	5,377 221	5,598	1,409 58	1,467
一人1日あたり排出量（g）			70.0		67.8		65.8		79.2		20.6	
対前年比（%）			-3.2%		-2.8%		-2.4%		22.1%		-73.8%	
④粗大ごみ												
年間排出量（t）	収集 持込	合計	1,000 40	1,040	1,068 86	1,154	1,057 22	1,079	1,267 51	1,318	1,137 62	1,199
一人1日あたり排出量（g）			15.1		16.6		15.5		18.7		16.8	
対前年比（%）			1.2%		11.0%		-6.5%		22.2%		-9.0%	
⑤ごみ処理量合計（②+③+④）												
年間排出量（t）	収集 持込	合計	34,841 4,145	38,986	34,586 4,258	38,844	34,315 4,270	38,585	36,058 4,543	40,601	29,350 4,238	33,588
一人1日あたり排出量（g）			564.9		560.2		553.3		574.6		470.8	
対前年比（%）			-0.3%		-0.4%		-0.7%		5.2%		-17.3%	
⑥資源（行政回収）												
ビン（t）			1,319		1,298		1,276		1,282		1,169	
カン（t）			475		490		480		484		442	
紙類（t）	収集 持込	合計	5,777 22	5,799	5,593 18	5,611	5,426 18	5,444	5,854 23	5,877	5,782 13	5,795
古布・ふとん（t）			879		843		894		1,138		854	
紙パック（t）			8		13		8		7		8	
白色トレイ（t）			2		2		2		2		0	
ペットボトル（t）			563		579		597		669		453	
プラスチック製容器包装（t）			593		640		679		745		1,754	
金属類（t）			88		90		95		113		139	
剪定枝（t）			55		45		48		86		3	
生ごみ一次処理物（t）			34		33		33		30		24	
食物資源（生ごみ）（t）			59		60		61		71		82	
キャップ（t）			10		9		9		9		1	
陶磁器（t）			6		7		5		6		14	
スプレー・ガス缶（t）			30		31		35		35		39	
ライター（t）			2		2		2		2		3	
小型家電（t）			3		3		3		6		8	
⑦資源（優良粗大ごみ）（t）			23		25		24		26		31	
⑧資源（有害性資源）（t）			70		68		72		71		60	
⑨資源（集団回収）（t）			2,120		2,044		2,005		2,042		2,179	
⑩資源化量合計（⑥+⑦+⑧+⑨）												
年間排出量（t）	収集 持込	合計	12,116 22	12,138	11,875 18	11,893	11,754 18	11,772	12,678 23	12,701	13,045 13	13,058
一人1日あたり排出量（g）			175.9		171.5		168.8		179.7		183.0	
対前年比（%）			0.8%		-2.0%		-1.0%		7.9%		2.8%	
⑪廃棄物総量（⑤+⑩）												
年間排出量（t）	収集 持込	合計	46,957 4,167	51,124	46,461 4,276	50,737	46,069 4,288	50,357	48,736 4,566	53,302	42,395 4,251	46,646
一人1日あたり排出量（g）			740.7		731.8		722.1		754.3		653.8	
対前年比（%）			-0.1%		-0.8%		-0.7%		5.8%		-12.5%	
⑫資源化率（%）			23.7%		23.4%		23.4%		23.8%		28.0%	
⑬組合資源化量（t）			1,087		1,047		1,032		1,300		801	
⑭総資源化率（%）			25.9%		25.5%		25.4%		26.3%		29.7%	

※人口は、毎年度末（3月31日現在）です。

※1日排出量は、年間総排出量を年間日数で除したものです。

※廃棄物総量、資源化合計及び資源化率には、組合資源化量を含みません。

※廃棄物総量はごみ処理量と資源化合計の合計となります。

※資源化量には、協力店で回収（拠点回収）した資源（紙パック、白色トレイ）を含みます。

※資源化率＝資源化合計／ごみ総量

※総資源化率＝（資源化合計＋組合資源化量）／ごみ総量

※端数処理のため、誤差が生じることがあります。

※紙類とは新聞紙、雑誌・雑がみ、段ボール、シュレッダーくずのことです。

※組合資源化量は、燃やすごみ、燃やさないごみから選別等し、3市の合計から按分したものです。

※行政回収量は、拠点回収量を含みます。

ごみ処理量、資源化量は、おおよそ微減で推移しています。そのうち、古布・ふとん、ペットボトルは顕著に減少しており、一方でプラスチック製容器包装、金属類は年々増加傾向にあります。

<参考>

【小平市一般廃棄物処理基本計画 数値目標の推移】

年度	2015	2016	2017	2018	2019	現計画目標値 2022年度
排出物原単位 (g/人日)	740.7	731.8	722.1	754.3	653.8	640.0g/人日
処理ごみ量 原単位(g/人日)	564.9	560.2	553.3	574.6	470.8	480.0g/人日
収集ごみ量 原単位(g/人日)	504.8	498.8	492.1	510.3	411.4	モニター指標 (毎年度)
持込ごみ量 (t/年)	4,145	4,258	4,269	4,542	4,239	モニター指標 (毎年度)
収集時リサイクル 率(%)	23.7	23.4	23.4	23.8	28.0	モニター指標 (毎年度)
最終処分量 (t/年)	4,624	4,573	4,542	4,736	3,927	モニター指標 (毎年度)
温室効果ガス排出 量(kg/人日)	0.32	0.28	0.28	0.27	0.28	モニター指標 (毎年度)
資源物混入率 (%)	—	可燃11.8 不燃16.4	—			モニター指標

排出物原単位は、市が処理に関与する廃棄物を市民一人、1日当たりの量に換算したもので、発生抑制がどのくらい図られているかがわかる指標となります。一人1日当たりの排出量が小さくなればなるほど、発生抑制が図られたといえます。

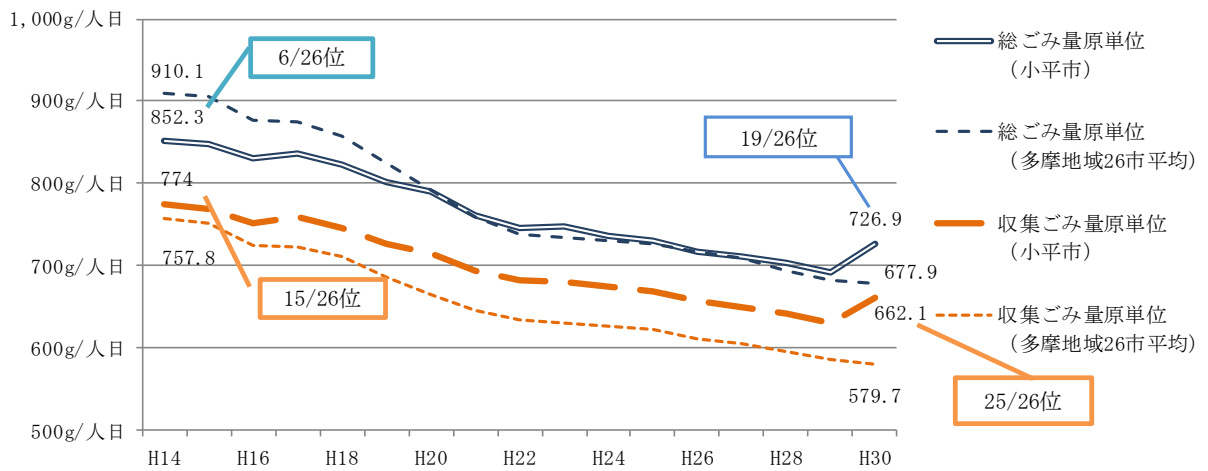
令和4(2022)年度の目標値は、一人1日当たり640.0gと設定しています。令和元(2019)年度は653.8gで前年度と比較して、100.5g、約13.3%減となっています。

また、処理ごみ量原単位は、ごみ・資源物総量のうち、ごみのみの量を市民一人1日当たりに換算したもので、ごみの発生抑制とともに、資源化品目の拡大と分別の徹底の効果を計る指標となります。

令和4(2022)年度の目標値は、市民一人1日当たり480.0gと設定しています。令和元(2019)年度は470.8gで前年度と比較して、103.8g、約18.1%減となっています。

<参考>

【小平市と多摩地域 26 市平均との比較】



公益財団法人東京市町村自治調査会が作成している「多摩地域ごみ実態調査」の平成 30 (2018) 年度統計によりますと、小平市は、市民一人 1 日当たりの集団回収を除く、ごみ・資源物総量を示した「総ごみ量原単位」は、多摩地域 26 市中で少ない方からみて 19 番目となっています。また、総ごみ量のうち、市が収集したごみと資源物の総量を示した「収集ごみ量原単位」は、多摩地域 26 市中で少ない方からみて、25 番目となっています。

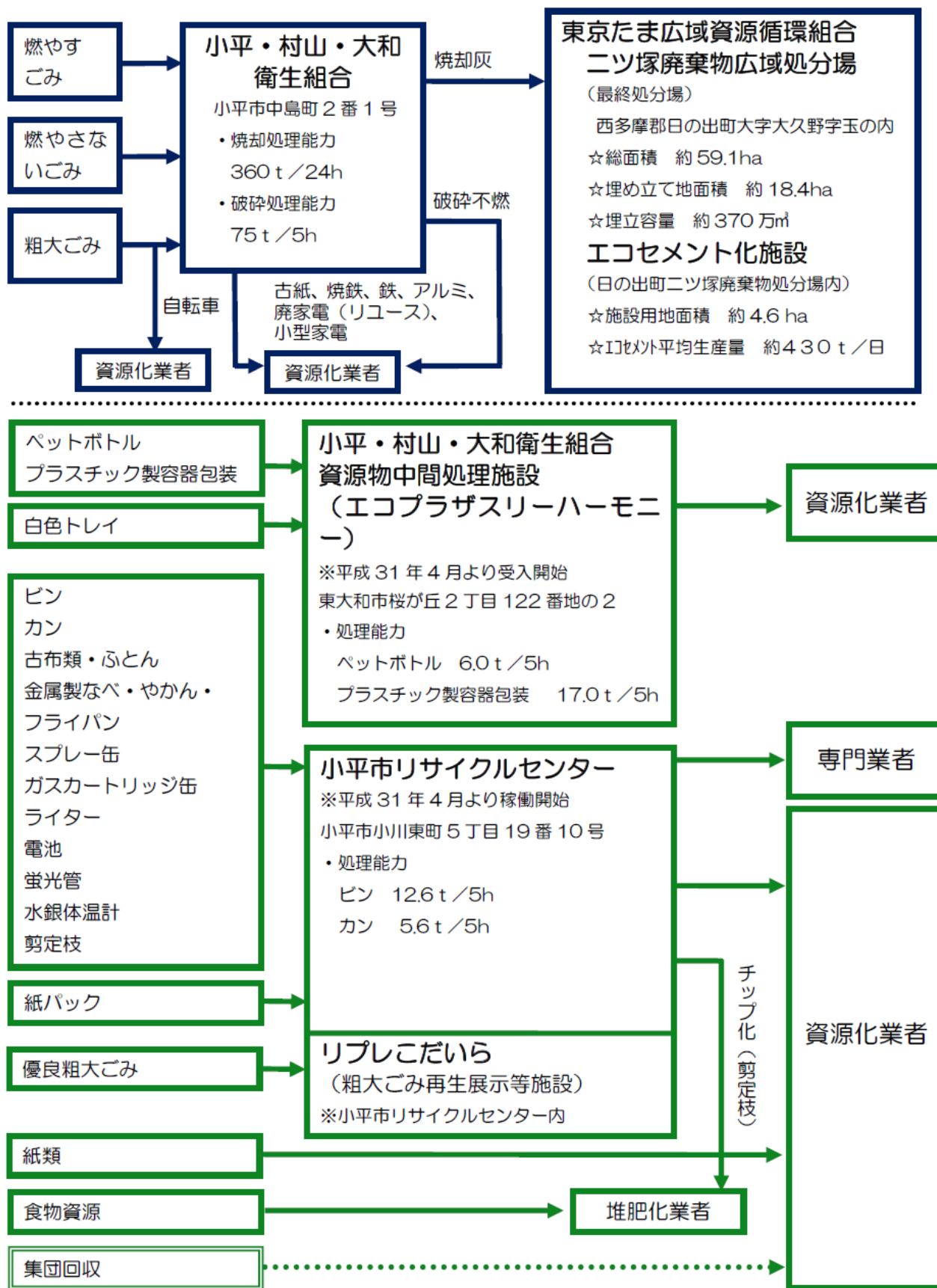


収集の様子



<参考>

【資源とごみの処理の流れ】（令和元（2019）年度）



2 ごみ処理事業の概要

(1) ごみ処理事業の概要

小平市では、昭和 40（1965）年に東大和市、武蔵村山市と共同して小平・村山・大和衛生組合を設立し、ごみの焼却処理等をしてきましたが、その間ごみ量の増大とごみ質の変化等に対応するため何度となく施設の増改築を繰り返し現在に至っています。また、より環境に配慮した清掃工場とするためにバグフィルターや白煙防止装置の設置を実施してきました。

そして、施設の老朽化・旧式化等による課題に対応するため、平成 26（2014）年度に「3 市共同資源化事業基本構想」を策定し、資源物処理施設や不燃・粗大ごみ処理施設、ごみ焼却施設の整備・更新について方針等を定めました。

その後、平成 27（2015）年度に「（仮称）3 市共同資源物処理施設整備実施計画」及び「（仮称）不燃・粗大ごみ処理施設整備基本計画」を策定し、平成 28（2016）年度より小平・村山・大和衛生組合資源物中間処理施設の設計・建設工事を、平成 29（2017）年度より不燃・粗大ごみ処理施設の設計・建設工事をそれぞれ開始しました。

そして、平成 31（2019）年 4 月に小平・村山・大和衛生組合資源物中間処理施設がしゅん工し、資源物の受け入れを開始しました。また、令和 2（2020）年 3 月に不燃・粗大ごみ処理施設がしゅん工し、同年 4 月より稼働を開始しました。

現在は、（仮称）新ごみ焼却施設の整備に向けて準備を進めており、稼働予定は令和 7（2025）年度となっています。

ごみの最終処分地は、昭和 55（1980）年に東京都三多摩地域廃棄物広域処分組合（現・東京たま広域資源循環組合）を設立し、昭和 59（1984）年から日の出町の谷戸沢最終処分場で埋め立てを開始し、平成 10（1998）年には埋立が終了しましたが、続いて同じ日の出町に二ツ塚最終処分場を建設し、現在組織市 25 市 1 町のごみを搬入しています。また、二ツ塚最終処分場の延命化及び資源の再利用化を目的として、焼却灰をセメントにリサイクルする「エコセメント化事業」に取り組んでおり、現在、焼却灰すべてがエコセメントとして、利用されています。

市では、平成 5（1993）年度に全市での資源の分別収集を行うため収集日の変更を実施し、平成 8（1996）年度には粗大ごみを有料としました。また、平成 10（1998）年度には収集日を再度変更して排出抑制と資源化の強化に取り組み、平成 12（2000）年 10 月には事業系ごみの全面有料化を実施する等、自己処理の徹底、ごみの排出抑制、資源の有効利用の促進はもとより、中間処理施設への負担軽減や最終処分場への搬入量の減量化に努力しています。

一方、平成 16（2004）年 8 月より小平市粗大ごみ受付センターを開設し、受付日時の拡大等のサービス向上を図るとともに、受付業務の迅速化、効率化を図り、平成 17（2005）年 11 月から、インターネット受付を開始しました。

平成 19（2007）年 4 月には、小平市清掃事業協同組合と「災害時におけるごみ、し尿、がれきの処理活動等の応援に関する協定書」を締結し、災害時の協力体制を整えました。

平成 20（2008）年度には、リサイクルセンター、小平・村山・大和衛生組合（こもれびの足湯）などを巡る中間処理施設の見学会、小学校の環境学習では、清掃事業協同組合の協力による収集車の乗車体験、収集員からの体験談など、ごみ処理の現場をより身近に感じ取れる機会を設けました。

平成 21（2009）年度には、市と清掃事業協同組合で「新型インフルエンザに係る業務継続計画」を作成しました。そして、平成 28（2016）年度には、小平市清掃事業協同組合と高齢者等の見守りに関わる協定を締結しました。

平成 31（2019）年度には、4 月 1 日から家庭ごみ有料化及び戸別収集へ移行しました。

今後も、廃棄物の発生抑制、繰り返し使う再使用、そして資源としての再利用やエネルギーとしての利用に努め、さらに再利用ができない物については環境に配慮した適正な処理をする等、循環型社会の構築に向けて市民、事業者、行政が一体となって、種々の施策の取組の強化や新たなごみ減量策等様々な取組をしていかなければなりません。

(2) 粗大ごみ収集

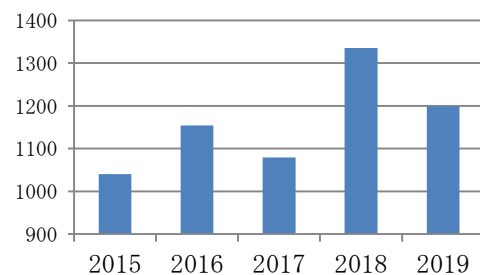
粗大ごみの受付件数は、平成 30（2018）年度は受付件数、収集量ともに大幅に増加しましたが、令和元（2019）年度は前年を下回りました。

月別にみた場合、年末の大掃除の 12 月や引っ越しの時期とも重なる 3 月が多い傾向にあります。

①粗大ごみ収集年度別推移

年度	粗 大 ご み			
	受付件数 (件)	対 前年比	収集量(t)	対 前年比
2015	45,826	3.9%	1,040	1.2%
2016	47,210	3.0%	1,154	11.0%
2017	50,343	6.6%	1,079	-6.5%
2018	59,640	18.5%	1,335	23.7%
2019	53,522	-10.3%	1,199	-10.2%

収集量(t) 粗大ごみ収集量の推移



②粗大ごみ等処理受付件数（令和元（2019）年度月別）

月	(単位：件)			
	収 集	持 込	臨 時	合 計
4月	4,181	7	2	4,190
5月	4,499	9	3	4,511
6月	3,729	18	2	3,749
7月	4,254	28	3	4,285
8月	4,469	24	1	4,494
9月	4,838	13	1	4,852
10月	4,747	25	3	4,775
11月	4,427	19	1	4,447
12月	5,021	41	6	5,068
1月	3,979	24	0	4,003
2月	4,008	25	3	4,036
3月	5,370	27	0	5,397
合 計	53,522	260	25	53,807



収集された粗大ごみ

(3) 不法投棄・動物の死体処理

不法投棄の品目は多岐にわたり、分別されていない未分別ごみ、敷物、板などがあります。動物の死体は、飼い主がいない猫が50%程度を占めています。

年度	不法投棄		動物の死体(匹)						計
	家電リサイクル (個)	その他 (個)	犬		猫		その他		
			飼	飼い主が いない	飼	飼い主が いない	飼	飼い主が いない	
2017	7	148	10	5	20	245	9	95	384
2018	9	190	13	3	19	185	4	101	325
2019	5	197	4	0	19	172	1	177	373

※家電リサイクルとは、エアコン、テレビ、冷蔵庫・冷凍庫、洗濯機、衣類乾燥機で市では収集していない品目になります。

(4) ごみ投入実績比較 | 令和元(2019)年度

燃やすごみは、ごみ全体の90%以上を占めています。

(単位: kg)

	収集	持込	計	割合
燃やすごみ	26,803,630	4,118,290	30,921,920	92.1%
燃やさないごみ	1,409,320	58,510	1,467,830	4.4%
粗大ごみ	1,136,500	62,230	1,198,730	3.6%
計	29,349,450	4,239,030	33,588,480	100.0%
%	87.38%	12.62%	100.0%	-

※持込には、廃棄物の処理及び清掃に関する法律第七条の許可業者、相対契約、臨時持込による処分が含まれます。

(5) ごみ組成分析調査結果 | 令和元(2019)年度

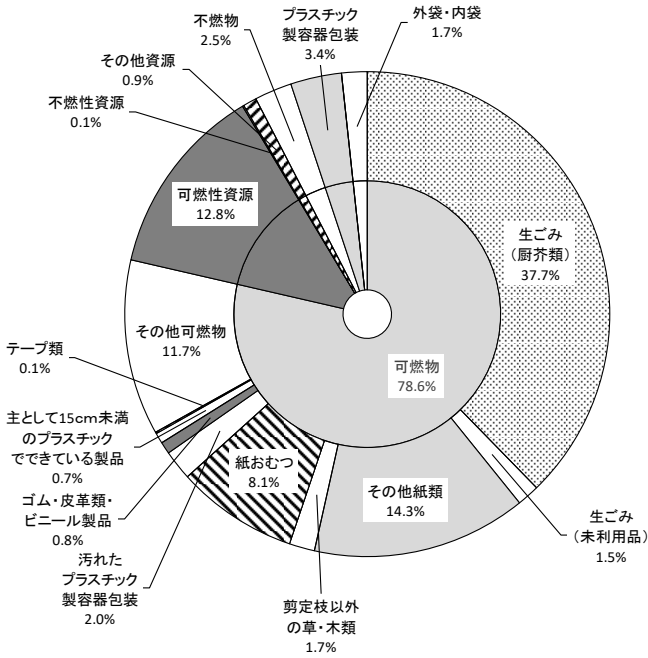
燃やすごみの中には19.7%、燃やさないごみの中には26.5%、プラスチック製容器包装の中には21.6%の分別不適物が入っており、適正な分別をしていく必要があります。

(単位: %)

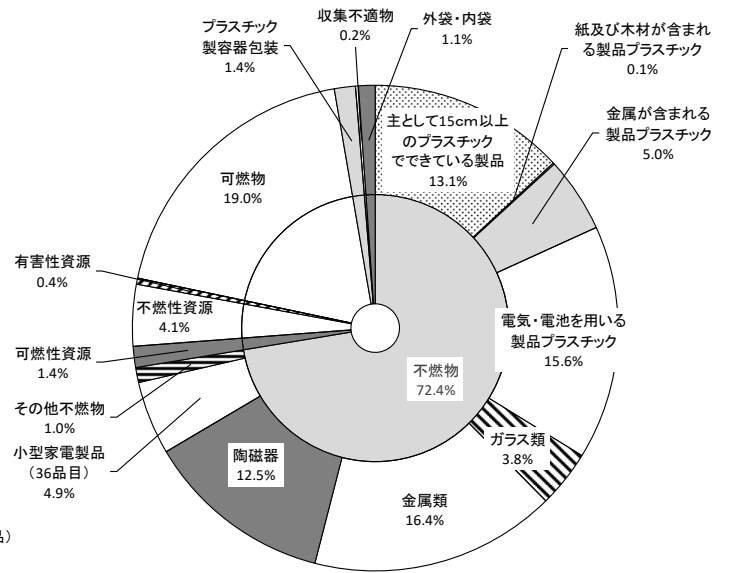
	可燃性 資源	不燃性 資源	有害性 資源	その他 資源	可燃物	不燃物	プラスチッ ク製容器包 装	収集 不適物	外袋・ 内袋	適正 分別	分別 不適物
燃やすごみ	12.8	0.1	0.0	0.9	78.6	2.5	3.4	0.0	1.7	80.3	19.7
燃やさないごみ	1.4	4.1	0.4	0.0	19.0	72.4	1.4	0.2	1.1	73.5	26.5
プラスチック製容器包装	0.3	1.1	0.2	1.0	14.1	4.9	73.3	0.0	5.1	78.4	21.6

※ごみ中の水分を含んだ状態での分析(湿ベース)

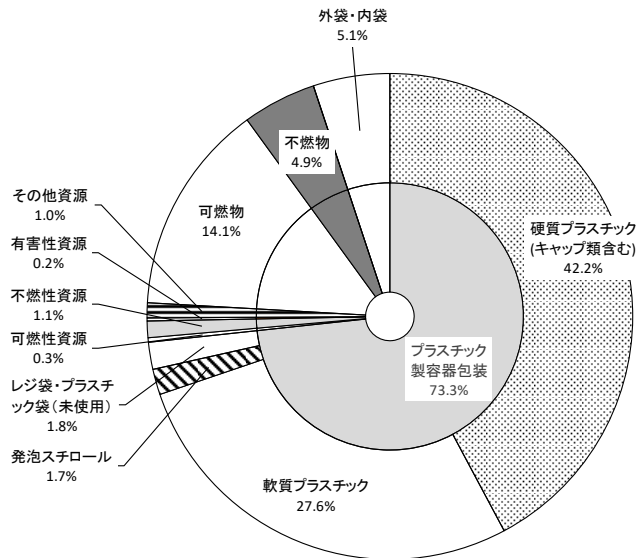
燃やすごみ組成



燃やさないごみ組成



プラスチック製容器包装組成



(6) ごみ処理施設

① 中間処理施設

小平市のごみは、小平市・東大和市・武蔵村山市の3市で構成される小平・村山・大和衛生組合によって処理されています。

名称	小平・村山・大和衛生組合		
所在地	小平市中島町2番1号		
電話番号	(042)341-4345		
敷地面積	約16,700m ² (組合所有 約9,200m ² 、小平市借地 約6,500m ²)		
施設概要	不燃物積替場	昭和43(1968)年12月竣工 約690m ²	
	廃水処理施設	昭和50(1975)年3月竣工 51m ³ /24h 昭和63(1988)年3月竣工 無放流化に改良	
	粗大ごみ処理施設 (破碎選別施設)	昭和50(1975)年10月竣工 75t/5h 平成10(1998)年3月選別装置改造	
	焼却施設 (3号炉)	昭和50(1975)年3月竣工 150t/24h 平成2(1990)年11月 大規模改造 平成15(2003)年3月バグフィルター設置	
		炉形式	全連続燃焼式ストーカ炉
		工場棟	鉄筋コンクリート・鉄骨造 地上3階、地下2階
		煙突	溶接鋼板製 地上59.5m
	焼却施設 (4・5号炉)	昭和61(1986)年11月竣工 平成15(2003)年3月バグフィルター設置 105t/24h×2炉	
		炉形式	全連続燃焼式ストーカ炉
		工場棟	鉄筋コンクリート・鉄骨造 地上4階、地下1階
煙突		外筒：鉄筋コンクリート造 内筒：鋼板製 地上100m	
沿革	昭和35(1960)年	当時の小平町が現在の場所をごみ処理施設に都市計画決定し、焼却場を建設	
	昭和40(1965)年 2月1日	3市による一部事務組合を設立、共同処理事業に移行。小平市施設を引継ぎ処理	
	昭和46(1971)年以降	2号炉等、人口急増、ごみ増等に対し施設拡充	



小平・村山・大和衛生組合の外観

みんなでごみを
へラスンジャー！！



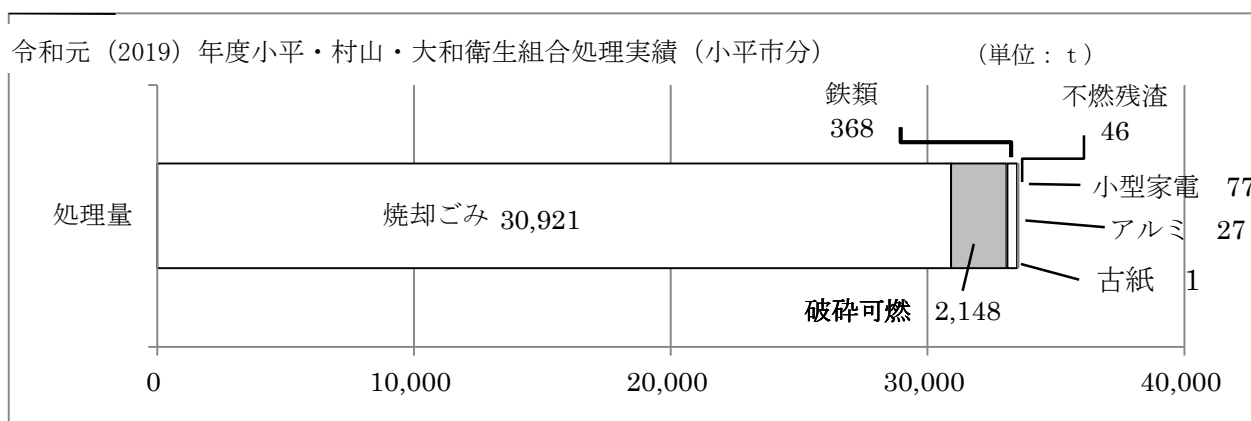
②小平・村山・大和衛生組合投入実績表

3市のごみの投入量は下表のとおりとなっています。また、投入割合は、令和元（2019）年度実績によると、小平市が51%、東大和市が24%、武蔵村山市が25%となっています。

（単位：t）

年度	小平市		東大和市		武蔵村山市		合計	内訳(3市分)					
	投入量	投入割合	投入量	投入割合	投入量	投入割合		燃やすごみ		燃やさないごみ		粗大ごみ	
								量	割合	量	割合	粗大	割合
2015	38,986	55%	15,458	22%	15,816	23%	70,260	62,265	89%	6,426	9%	1,569	2%
2016	38,844	56%	15,388	22%	15,542	22%	69,774	61,736	88%	6,310	9%	1,730	2%
2017	38,585	56%	15,392	22%	15,494	22%	69,471	61,622	89%	6,207	9%	1,642	2%
2018	40,601	57%	15,173	21%	15,487	22%	71,261	62,099	87%	7,262	10%	1,900	3%
2019	33,588	51%	15,753	24%	16,339	25%	65,680	60,436	92%	3,290	5%	1,954	3%

※端数処理のため、小平・村山・大和衛生組合の数字とは異なる場合があります。



焼却量 33,069 t = 燃やすごみ 30,921 t（古紙 1 t 除く）+ 破碎可燃 2,148 t → 焼却残灰 3,927 t
 焼却残灰 3,927 t → エコセメント化
 埋立処分量なし 不燃残渣 46 t 資源化

③小平・村山・大和衛生組合ダイオキシン類の測定結果 | 令和元（2019）年度

ダイオキシン類の測定結果は、全ての炉の数値が国の基準値を下回っています。

	測定項目	排出ガス	焼却灰	ばいじん	排出水	汚泥
		(煙突)				
	(単位)	(ng-TEQ/m ³ N)	(ng-TEQ/g)	(ng-TEQ/g)	(pg-TEQ/l)	(ng-TEQ/g)
	基準値	1	3	3	10	3
3号炉	測定日：R1.6.11	0.10	0.0064	0.26	0.11	0.17
4号炉	測定日：R1.8.6	0.0020	0.0081	0.23	(採取日：R1.6.11)	(採取日：R1.6.6)
5号炉	測定日：R1.6.10	0.054	0.012	3.30		

※測定結果は、コプラナーPCBを含んだ値です。

※1ng（ナノグラム）は10億分の1グラムです。

※1pg（ピコグラム）は1兆分の1グラムです。

※TEQは、毒性等量のことで、ダイオキシン類の量をダイオキシン類の中で最も毒性の強い2,3,7,8-四塩化ダイオキシンの毒性等量に換算した数値です。

※焼却灰、ばいじん（飛灰）、及び汚泥の基準は、薬剤処理等の判断基準です。全ての焼却施設において、薬剤処理を実施しています。

※焼却炉の集じん装置は、バグフィルターです。

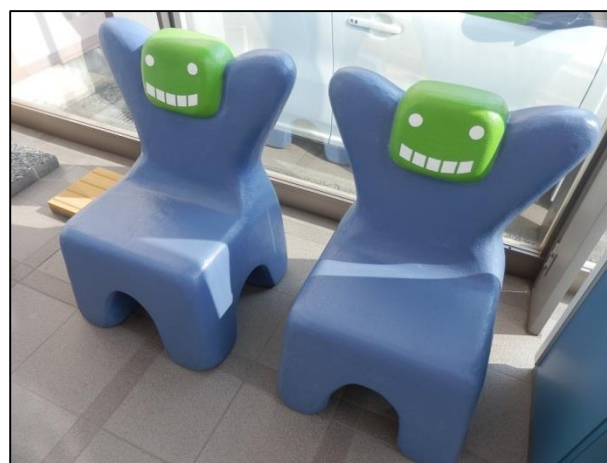
④最終処分場

小平・村山・大和衛生組合で中間処理をした後の焼却残渣や破碎不燃物は、25市1町共同による東京たま広域資源循環組合でエコセメント化（エコセメントの原料として資源化）と最終処分（埋立）が行われています。

名称	東京たま広域資源循環組合		
所在地	西多摩郡日の出町大字大久野 7642 番地		
電話番号	(042) 597-6151		
構成団体	25市1町		
処分場の規模	面積	用地面積	59.1 ha
		開発面積	33.3 ha
		埋立地面積	18.4 ha
		管理施設等面積	14.9 ha
		残存緑地面積	25.8 ha
	埋立容量	全体埋立容量	約 370 万 ³ m
		廃棄物埋立容量	約 250 万 ³ m
覆土容量		約 120 万 ³ m	
埋立進捗率	44.7%（平成 29（2017）年度 年間進捗率 0.1%未済）		
エコセメント化施設	施設用地面積	4.6 ha	
	エコセメント平均生産量	約 430 t / 日	



エコセメント化施設の全景（平成 30 年（2018）7 月撮影）



エコセメントで造られたベンチ

⑤最終処分場搬入配分量及び実績

小平・村山・大和衛生組合で焼却、破碎処理した焼却灰は、東京たま広域資源循環組合（最終処分場）に搬入しています。直近3年間の最終処分場への投入量は、搬入配分量を上回っています。破碎不燃物は、今年度より資源化处理することで投入は無くなりました。

		2017年度	2018年度	2019年度
搬入配分量	(焼却残渣・t)	3,488	3,695	3,726
	(不燃物・m ³)	47	34	27
投入実績量	(焼却残渣・t)	4,488	4,736	3,927
	(不燃物・m ³)	59	0	0
搬入配分量に対する貢献量	(焼却残渣・t)	-1,000	-1,041	-201
	(不燃物・m ³)	-12	34	27
体積換算係数 (m ³ /t)	可燃	0.85	0.82	0.83
	不燃	1.09	0.00	0.00

※広域割当量は、毎年ローリングされるので、市計画量と相違します。

⑥令和元（2019）年度搬入実績

焼却量に対するエコセメント化した量は11.9%であり、埋立てで処理された埋立量は0となっています。

(単位：t)

エコセメント化した量	3,927	埋立量	0
焼却量に対する割合	11.9%	ごみ量に対する割合	0.0%

※焼却量(33,069 t) = 燃やすごみ(30,921 t) + 破碎可燃(2,148 t)

※ごみ量(33,588 t)

※端数処理のため、誤差が生じることがあります。

(7) 防鳥ネットの無料貸出し（平成30年度1月末まで）

カラス・猫などによるごみ等の散乱防止の為、市役所、東部出張所、西部出張所および動く市役所で、防鳥ネットの無料貸出しを行っていました（現在は貸出しを終了しています）。

(単位：枚)

2016年度	2017年度	2018年度
955枚	931枚	702枚



(8) ごみ集積所への啓発等看板配布

市役所、東部出張所、西部出張所及び動く市役所で、下記の啓発等の看板を配布しています。
※西地区収集日及び東地区収集日は平成 30（2018）年度をもって配布終了



西地区収集日



東地区収集日



地区以外禁止



ごみ出しルール



持ち去り禁止



不法投棄禁止 (1)



不法投棄禁止 (2)

(単位：枚)



品格

	2017 年度	2018 年度	2019 年度
西地区収集日	178	68	—
東地区収集日	198	71	—
地区以外禁止	124	44	24
ごみ出しルール	134	41	4
持ち去り禁止	17	18	20
不法投棄禁止 (1)	78	47	128
不法投棄禁止 (2)	121	44	119
品格	76	45	49
合計	926	378	344

3 し尿処理事業

(1) し尿処理の概要

小平市は、昭和 40（1965）年度にし尿及び汚泥の処理を目的として湖南衛生組合に加入しました。その後、公共下水道の敷設の進展と共に処理量は減少しています。

一方、施設の老朽化も進んできており、処理量の減少と併せて、効率的な施設運営を図るため、平成 20（2008）年度に前処理希釈方式による処理能力 6 k1/日の施設に改修しました。

し尿処理量は漸減傾向にあるものの、建設現場での仮設トイレや種々の理由のため下水道接続が困難な状況等の存在により、公共下水道へ全面的に切り替わるには相当の期間を要します。

こうしたことから、湖南衛生組合では、引き続きし尿の共同処理を行うため、平成 26（2014）年度から平成 28（2016）年度にかけて、処理量に見合った新処理施設等の整備、不用施設の解体・撤去及び土地の有効利用を実施する「総合整備事業」を進め、施設を更新しました。

(2) し尿処理施設

名称	湖南衛生組合（湖南処理場）
所在地	武蔵村山市大南 5 丁目 1 番地
電話番号	(042)561-1551
敷地面積	29,719.60 m ² (約 8,990 坪)

(3) し尿等処理量の推移

①し尿処理人口（推計）別内訳

浄化槽、し尿の利用人数は、ともに年々減少傾向にあります。

【し尿処理人口（推計）別内訳】

(単位：人)

年度	2015	2016	2017	2018	2019
浄化槽	227	226	85	44	32
し尿	105	90	72	68	65

※平成 29（2017）年度より、5 年間以上利用がなかった人数を除いています。

②年度別し尿・浄化槽汚泥収集量推移

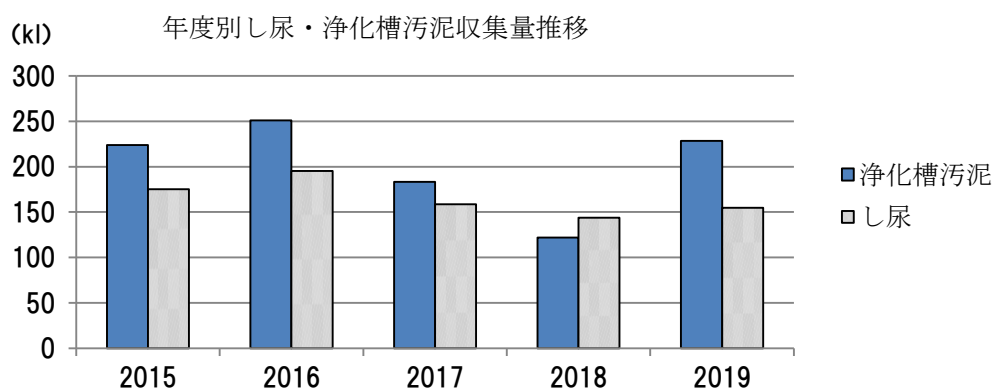
し尿・浄化槽汚泥収集量の家庭系収集量は減少傾向にありますが、事業系収集量はその年の工事

件数等によって増減するため、平成 28（2016）年度および令和元（2019）年度は市内大規模事業所の工事に伴い、一時的に増加しています。

【年度別し尿・浄化槽汚泥収集量推移】

(単位：k1)

年度	2014	2015	2016	2017	2018	2019
浄化槽汚泥	229.2	223.8	261.1	193.3	122.0	228.6
し尿	194.1	175.1	195.3	158.5	143.8	154.6
総収集量	423.3	398.9	446.4	341.8	265.8	383.2
前年比(%) (総収集量)		△ 7.7	△ 5.8	11.9	△ 23.4	△ 22.2



③年度別汚水収集量推移 | 雑排水・浄化水 (単位: kl)

年度	2015	2016	2017	2018	2019
汚水	16.4	2.3	0.0	0.0	0.0
前年比 (%)	5.7	△ 86.0	△ 100.0	-	-

④湖南衛生組合し尿・浄化槽汚泥搬入実績表 | 年度別・組織団体別 (単位: kl)

	武蔵野市		小金井市		小平市		東大和市		武蔵村山市		合計	
	搬入量	搬入割合	搬入量	搬入割合	搬入量	搬入割合	搬入量	搬入割合	搬入量	搬入割合	搬入量	搬入割合
2015	151.8	13%	70.9	6%	398.9	33%	387.8	32%	204.6	17%	1,214.0	100%
2016	156.7	12%	81.7	6%	442.0	35%	364.5	29%	220.0	17%	1,264.9	100%
2017	203.3	18%	94.2	8%	341.8	30%	314.1	27%	197.2	17%	1,150.6	100%
2018	247.8	23%	80.5	8%	265.8	25%	284.0	27%	177.8	17%	1,055.9	100%
2019	253.0	22%	97.7	9%	383.2	34%	248.8	22%	151.8	13%	1,134.5	100%

(4) 浄化槽清掃件数の推移 (単位: 件)

年度	2015	2016	2017	2018	2019
清掃件数	50	53	55	40	132

4 リサイクル推進事業

(1) リサイクル事業の概要

小平市では平成元（1989）年からモデル地区の分別収集を始め、毎年地区を拡大し、平成5（1993）年1月には市内全域で資源物の分別収集を実施しました。

この間、平成3（1991）年度には生ごみのリサイクルを推進するためコンポスト容器購入費補助（現・食物資源処理機器購入費補助）制度を定め、平成4（1992）年度には協力店で白色トレイ回収を開始、リサイクルフェスティバル実行委員会（後のごみ減量推進実行委員会）も発足し、平成5（1993）年度には「小平市廃棄物の減量及び処理に関する条例（以下条例）」を全面的に改正、廃棄物減量等推進審議会（市民会議の昇格）を設置し、市民と事業者と行政の三位一体となった体制が確立されました。

平成6（1994）年2月にリサイクルセンターがオープンし、廃棄物減量等推進員（愛称、クリーンメイトこだいら）もこの年に設置、平成8（1996）年にペットボトルの資源化施設の増設や、粗大ごみの再生展示販売施設（リプレこだいら）を建設し、平成9（1997）年4月からペットボトルの回収や優良な家具類の再生販売を開始しました。

平成14（2002）年度には、硬質のプラスチック製容器包装の全市収集を開始したほか、緑のリサイクルとして剪定枝のチップ化事業を開始しました。

平成16（2004）年度には小学校の食物資源（生ごみ）一次処理物を使った堆肥を畑で利用し、その有効性と問題点を検証するモデル事業を開始しました。

平成20（2008）年度には落ち葉のリサイクル袋を作成し、希望者には貸出しを実施しました。

平成22（2010）年7月からは、生ごみの資源化を図るため、食物資源循環モデル事業を開始し、平成24（2012）年7月からは、市内全域に対象地域を拡大しました。

また同年には、市制施行50周年記念イベント「こだいら環境フェスティバル」を実施しました。

平成25（2013）年度は、条例のうち資源持ち去りの罰則を強化したほか、小型家電リサイクルを、イベント回収及び日時場所を予め定めて行う拠点回収で開始しました。

平成26（2014）年度は、小型家電リサイクルにおいて国の実証事業に参加し、9月に市役所、東部市民センター、西部市民センターに回収ボックスを設置しました。11月から、これまでごみとして収集していたスプレー缶・ガスカートリッジ缶、ライター、アルミ製以外の金属製なべ・やかん・フライパン、ぬいぐるみ・かばん・帽子・ネクタイ・ベルト、羽毛ふとん、内側がアルミコーティングされている紙パックについて、資源とする分別変更を行いました。また、2月からは、小型家電リサイクル法に基づく認定事業者（リネットジャパン株式会社）と協定を締結し、宅配便による小型家電の自宅回収サービスについて案内を開始し、資源化推進を図りました。

そして、小平市、東大和市、武蔵村山市における資源物処理の共同化、適正処理を推進するため、3市および小平・村山・大和衛生組合と共同で同年に策定された「3市共同資源化事業基本構想」により、資源物処理施設等の整備・更新について方針等を定めました。

平成27（2015）年度は、老朽化等によりリサイクルセンターの施設更新を行うため、「小平市リサイクルセンター整備基本計画」を策定しました。また、小型家電リサイクルにおいて、都の補助金を活用し、市内図書館6か所に回収ボックスを増設し、事業推進を図りました。その他、小平・村山・大和衛生組合により「（仮称）3市共同資源物処理施設整備実施計画」が策定されました。

平成 28 (2016) 年度は、未利用食品の回収を「フードドライブ」と称し、こだいら環境フェスティバルで本格実施し、食品ロス削減の啓発を行いました。

また、同年には食物資源循環モデル事業が、参加目標世帯数 1,000 世帯を概ね達成したことから、平成 29 (2017) 年度より「食物資源循環事業」として本格実施しました。本事業由来の堆肥を使って市内で栽培した「資源循環野菜」はイベントで販売し、市内循環を PR しています。

そして、小平・村山・大和衛生組合により小平・村山・大和衛生組合資源物中間処理施設の設計・建設工事が開始されました。

また、平成 29 (2017) 年 3 月には、小型家電リサイクルにおいて、「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」(東京 2020 組織委員会が実施する入賞メダルを、小型家電から抽出されるリサイクル金属を活用して制作する、国民参画型のプロジェクト)に参加するため、都市鉱山メダル連携委員会に入会しました。

平成 29 (2017) 年度は、リサイクルセンターの設計・建設工事について、技術提案型総合評価方式により事業者を選定し、設計協議を行うとともに工事に着手しました。

平成 30 (2018) 年度は、リサイクルセンターの設計・建設工事を引き続き行い、平成 31 (2019) 年 3 月にしゅん工しました。また、令和元 (2019) 年度以降の新施設の運営に係る長期包括運營業務委託について、技術提案型総合評価方式による事業者選定を行い、運営準備を行いました。さらに、エコショップ認定制度を創設し、市内販売店によるリサイクル活動を推進、家庭ごみ有料化に備えた資源化のルート拡大を行いました。

令和元 (2019) 年度は、4 月から新しいリサイクルセンターの稼働を開始するとともに、リプレこだいらと市の担当部署(資源循環課)もリサイクルセンターへ移転し、陶磁器食器や廃食油、小型家電等の常時回収を開始し、同じく 4 月から開始された家庭ごみの有料化と合わせ、さらなるごみの原料とリサイクルの推進に努めています。

また、同年 4 月に小平・村山・大和衛生組合資源物中間処理施設がしゅん工し、資源物の受け入れを開始しました。

その他、小平市では、市民ボランティアの方の協力を仰ぎつつ、フェスティバルやフリーマーケットの開催、ごみ・リサイクル情報誌「ごみらいふ」の発行、講習会(食物資源堆肥化、廃油を使った石けん作り、廃傘を使ったマイバッグ)等さまざまな事業を展開するとともに、クリーンメイトと協働して不法投棄監視ウィーク事業、資源持ち去りパトロール、マイバッグキャンペーン、収集車両用マイバッグ啓発マスクの作成、イベントでの啓発活動を実施しました。

また、平成 23 (2011) 年 6 月からは、予め日時と場所を定めて行う、拠点回収による陶磁器リサイクルを開始して、ごみ減量とリサイクルの推進を図ってきました。平成 25 (2013) 年 11 月から小型家電、平成 27 (2015) 年 1 月から雑貨類、3 月から廃食油、未利用食品を回収品目に追加し、名称を「リサイクルきゃらばん」と称し、実施しました。

なお、ごみ減量推進実行委員会は、平成 29 (2017) 年度の事業を終了後、平成 30 (2018) 年 4 月に解散となりました。委員会が主催していた各事業は平成 30 (2018) 年度から市主催となっています。



(2) 資源回収売払金の推移 | 行政回収

各資源物の市況により、売払い金は毎年大きく変動します。

(単位：円)

年度	2015	2016	2017	2018	2019
生ビン	135,229	134,921	129,453	116,055	140,822
カレット(透明)	0	0	0	0	0
カレット(茶)	0	0	0	0	0
カレット(その他)	-639,520	-1,580,040	-1,393,920	-1,693,620	0
アルミ缶	33,058,430	29,906,890	38,019,311	36,577,420	29,991,561
スチール缶	1,938,603	2,127,343	3,856,872	4,819,731	3,711,870
新聞紙	8,439,915	7,809,320	7,462,900	8,612,365	8,614,250
雑誌	30,956,945	31,112,480	33,999,240	28,330,860	21,289,580
ダンボール	17,307,130	17,870,570	19,668,840	19,835,295	12,192,310
古布	10,004,795	5,156,060	5,478,095	6,983,865	5,727,637
ふとん	301,813	106,430	110,755	140,020	89,995
紙バック	16,700	61,710	41,800	36,600	54,390
白色トレイ	0	0	0	0	0
キャップ	50,050	46,425	45,950	45,100	3,950
その他	641,580	576,525	748,780	758,170	907,040
小計	102,211,670	93,328,634	108,168,076	104,561,861	82,723,405
消費税	8,176,927	7,466,284	8,653,439	8,364,943	7,398,545
ペットボトル*	19,555,402	15,468,014	24,894,228	26,503,602	0
再商品合理化拠出金*	1,254,067	1,816,071	3,039,658	156,526	0
小型家電売却金	58,320	30,348	34,020	6,079	0
合計	131,256,386	118,109,351	144,789,421	139,593,011	90,121,950

※カレット(その他)の逆有償分については、令和元(2019)年度からカレット残渣処理委託料(歳出予算)として計上しているため、本表に含まれません。

※ペットボトルの有償入札拠出金および再商品合理化拠出金は、資源物中間処理施設の稼働に伴い、令和元(2019)年度から、小平・村山・大和衛生組合が扱うようになりました。

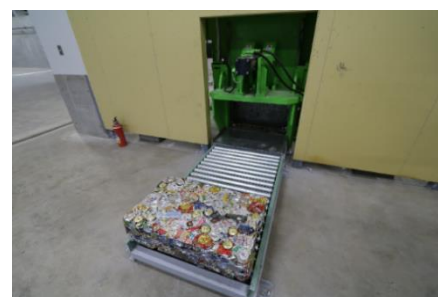
(3) リサイクル施設

①小平市リサイクルセンター

施設名称	小平市リサイクルセンター
住所	小平市小川東町5丁目19番10号
用途地域	準工業地域
主要用途	工場
構造・規模	鉄骨造2階建
敷地面積	11,447.00 m ²
建築面積	2,916.31 m ²
各階床面積	1階：2,737.63 m ² 、2階：1,347.47 m ²
延床面積	4,151.79 m ²
処理能力	ビン 12.6ト/5h、 カン 5.6ト/5h
建設費	約13億6,267万円
建設年度	平成30(2018)年度
主要機器	供給・搬送コンベヤ 破袋機・小袋破袋機 除袋機 磁選機 アルミ選別機 カンプレス機



リサイクルセンターの外観



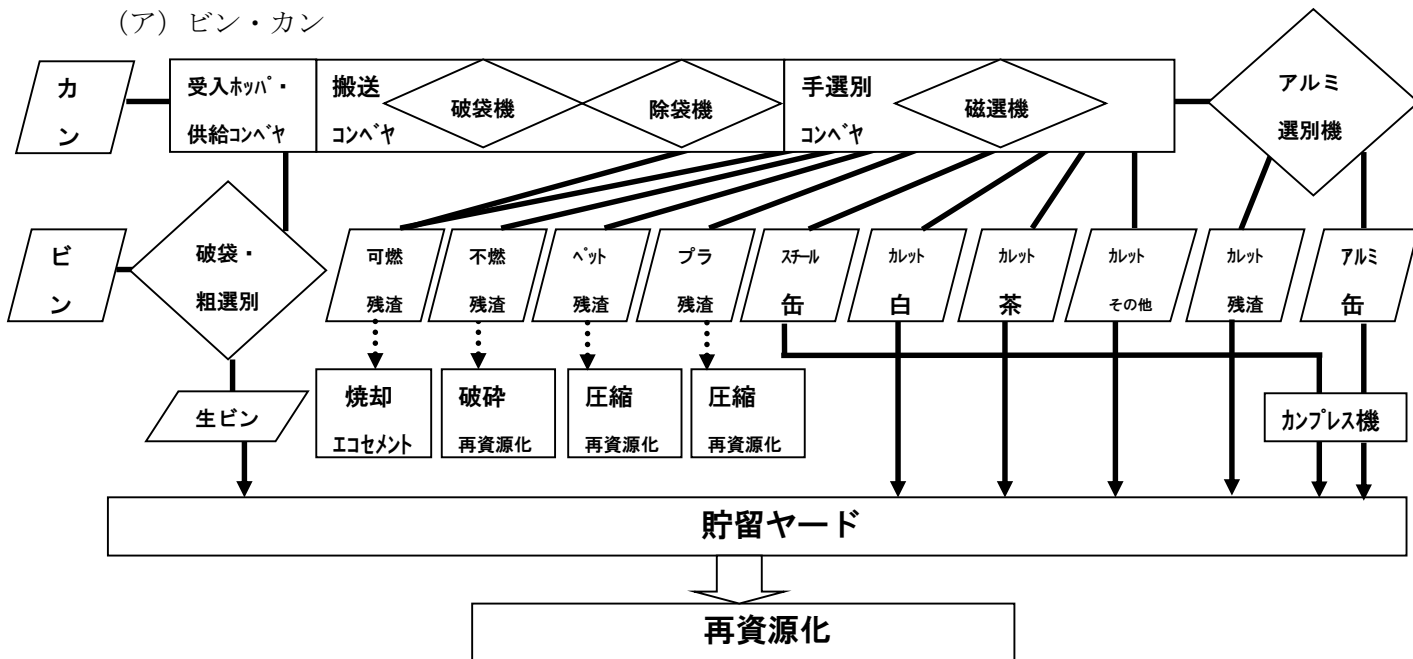
プレスされた缶類

小平市リサイクルセンターは、ビン・カンを中心とした資源物の選別・圧縮等の中間処理を行う資源化エリアと、資源循環課窓口、各種見学設備、リプレこだいらを備えたプラザエリアにより構成されています。

【リサイクルセンター再資源化フロー】

主な資源物の処理は以下のような流れとなっており、最終的に再資源化業者に引き渡しを行います。

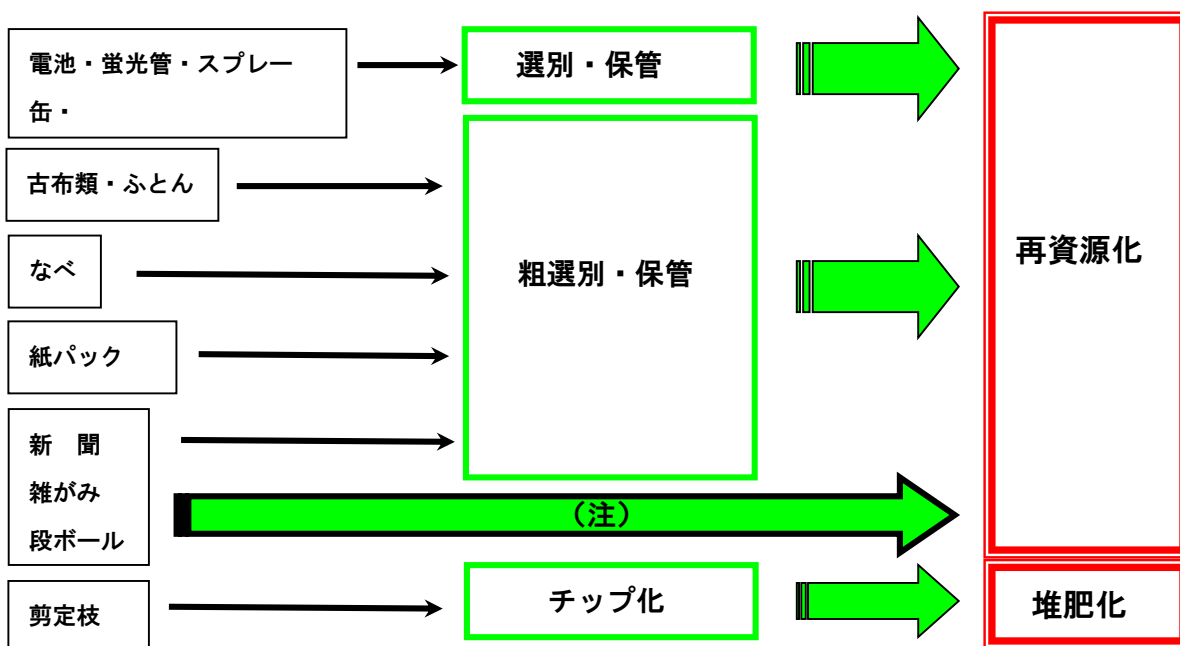
(ア) ビン・カン



※ビン、カンの選別作業は、同一ラインで処理日・時間帯を分けて行っています。

※ ……➡ の処理は、他の施設で行っています。

(イ) その他の資源物（有害資源物、古布類、なべ、紙パック、古紙類、剪定枝）



注) 古紙類は収集後、リサイクルセンターを経由せずに再資源化業者へ直納しており、市民による直接持込分のみリサイクルセンターで受け入れています。(持込分は古紙類全体の約 0.4%程度)

②小平・村山・大和衛生組合資源物中間処理施設

施設名称	小平・村山・大和衛生組合資源物中間処理施設 (愛称：エコプラザスリーハーモニー)
住 所	東大和市桜が丘 2 丁目 122 番地の 2
用途地域	工業地域
主要用途	ゴミ焼却場その他の処理施設
敷地面積	4,311.64 m ²
構造・規模	鉄骨造・地上 3 階建
建築面積	1,878.95 m ²
1 階床面積	1,115.90 m ²
2 階床面積	577.15 m ²
3 階床面積	1,814.52 m ²
延床面積	3,612.62 m ²
処理能力	容器包装プラスチック系列 17t/5h ペットボトル系列 6t/5h
建設費	約 25 億 4,318 万円 (消費税込み)
工期	平成 29 (2017) 年 1 月から 平成 31 (2019) 年 4 月
主要機器	資源物クレーン 資源物供給コンベヤ 破袋機・破除袋機 比重差選別機 手選別コンベヤ 圧縮梱包機 集じん・脱臭・VOC 除去設備



資源物中間処理施設の外観



ベール化 (圧縮) されたペットボトル

小平・村山・大和衛生組合資源物中間処理施設は、小平市、東大和市、武蔵村山市の家庭などから排出されるペットボトルとプラスチック製容器包装の選別・圧縮・梱包・保管を行う施設です。

また、資源の有効利用や資源循環の仕組みを学べる研修室などがあり、環境啓発活動も行える施設となっています。

(4) 資源回収補助金交付状況 | 集団回収

自治会、子ども会、マンション管理組合など地域の団体に行政に頼らず自主的な資源回収を補助する制度です。

①補助金交付単価額 | 令和（2019）年度

品目	単価	品目	単価	品目	単価
繊維類	7 円/kg	段ボール	*9 円/kg	カレット	7 円/kg
新聞	*9 円/kg	牛乳パック	9 円/kg	金属類	7 円/kg
雑誌類	*9 円/kg	ビン類	7 円/本	アルミ缶	25 円/kg

※引取業者選定依頼書を提出した場合、新聞・雑誌類・段ボールは6円/kg

②年度別回収実績

年 度	2015	2016	2017	2018	2019
回収量 (kg)	2,120,247	2,043,874	2,004,790	2,041,516	2,179,079
補助金交付額 (円)	16,600,844	16,054,120	15,905,432	16,234,402	17,250,441
交付団体数 (団体)	114	115	116	123	121

③品目別回収量

(単位：kg)

年 度	2015	2016	2017	2018	2019
繊維類	83,219	78,202	78,121	92,722	110,807
紙 類	1,992,654	1,920,804	1,881,752	1,903,359	2,014,808
ビン類	1	0	0	0	0
カレット	0	5	0	116	127
金属類	13,264	12,964	12,616	12,082	15,704
アルミ缶	31,109	31,899	32,301	33,237	37,633
計	2,120,247	2,043,874	2,004,790	2,041,516	2,179,079

④令和元（2019）年度 資源回収補助金交付団体数

【交付団体数】

上半期	118 団体
下半期	121 団体



(5) 食物資源循環（モデル）事業資源化実績

家庭から出る生ごみを分別収集し、堆肥化する事業です。

モデル事業として毎年 100 件程度の拡大を続け、平成 28（2016）年度に参加登録世帯数がおおむね 1,000 世帯となりました。平成 29（2017）年度から事業を本格実施とし、その後は同規模で継続実施しています。

	2015	2016	2017	2018	2019
参加登録世帯数	936	989	950	1,000	1,000
資源化量(t)	59	60	61	71	82



(6) 食物資源（生ごみ）処理機器購入費補助金交付実績

平成 26（2014）年度以降は業務用の申請はなく、年間の申請件数は 100 件以上で推移しています。

年度	基数	補助額(円)	補助金交付対象改正の経緯	
2015	47	932,800	全機種対応	購入金額の1/2
2016	40	741,800	上限	30,000円（家庭用） 300,000円（業務用）
2017	51	896,500	※処理機器は、日量処理能力が5kg未満のものを家庭	
2018	114	1,986,200	用、5kg以上のものを業務用としています。	
2019	194	2,544,600	※上記の区分は、2014年度以降は10kgに改めました。	

令和元（2019）年度 機種別補助交付実績

機種	基数	補助額（円）
コンポスター系機種	5	61,600
ボカシ（EM）セット	15	39,200
電動型（乾燥型）	116	2,308,800
電動型（分解型）	1	29,800
家庭その他	57	105,200
業務用	0	0
合計	194	2,544,600



(7) 陶磁器食器回収実績

予め日時と場所を定めて実施する拠点回収に加え、平成 31（2019）年 4 月からリサイクルセンターでの常時回収を開始しました。

年度	2015	2016	2017	2018	2019
拠点回収回数(回)	6	6	6	7	6
拠点回収量(kg)	6,530	5,370	5,240	6,759	3,013
常時回収量(kg)	—	—	—	—	11,497
回収量合計(kg)	6,530	5,370	5,240	6,759	14,510

※拠点回収はごみゼロフリーマーケット、こだいら環境フェスティバル、リサイクルきゃらばん（御幸地域センター、東部公園、マミーマート小平小川店、いなげや小平小川橋店）で回収したものの合計です。

(8) 小型家電回収実績

「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」は平成 31（2019）年 3 月 31 日で終了しましたが、小型家電の回収は継続します。

回収日から資源化まで時差があるため、年度内の回収量と資源化量は一致していません。

年度	2015	2016	2017	2018	2019
回収量(kg)	2,809	2,988	3,530	5,063	7,576
資源化量(kg)	2,700	2,810	3,150	5,630	8,070

※回収方法：市役所、東部市民センター、西部市民センター、リサイクルセンターに加え、中央・喜平・上宿・津田・大沼図書館、なかまちテラス、鈴木公民館に回収ボックスを設置して回収、ごみゼロフリーマーケット、こだいら環境フェスティバル、リサイクルきゃらばん（御幸地域センター、東部公園、マミーマーケット小平小川店、いなげや小平小川橋店）での拠点回収

(9) リプレこだいら販売実績 | 令和元（2019）年度

ごみとして処分される粗大家具のうち、一部優良なものを修理し、展示販売しています。

品目	点数	販売金額（円）	品目	点数	販売金額（円）
和洋タンス	9	167,000	机	53	173,000
整理タンス	98	486,000	いす	375	998,600
その他タンス	25	124,000	ベッド	77	306,900
サイドボード	6	39,000	その他	729	1,027,750
食器棚	37	388,500	修理	109	517,600
本棚・整理棚	144	415,700	自転車	221	1,883,230
テーブル・座卓	195	652,600	自転車修理	259	604,500
			計	2,337	7,784,380

（公社）小平市シルバー人材センター資料より

(10) 年賀ハガキ等回収実績

不要になっても、個人情報がかかっているはがきは手放しにくいものですが、はがき回収ボックスに投函していただくと、一旦市で預かり、紙類のリサイクル工場に持って行きます。

年度	2015	2016	2017	2018	2019
郵便局計	529.3	468.0	356.0	420.5	355.0
市役所本庁舎	439.1	343.5	411.0	335.0	295.0
東部出張所	120.1	157.5	209.0	217.7	205.0
西部出張所	32.3	51.1	153.0	109.0	100.0
計	1120.8	1020.1	1129.0	1082.2	955.0

※郵便局実施期間：暑中見舞いハガキ：8月～9月

年賀ハガキ：1月～2月

5 家庭ごみ有料化及び戸別収集への移行

(1) 家庭ごみ有料化及び戸別収集への移行の概要

多摩地域では、高額なごみ処理事業費の削減や最終処分場の延命化といった共通の課題に対応し、ごみゼロ社会を目指すため、東京都市長会が平成 13（2001）年 10 月に、「平成 15（2003）年を目途に全市において家庭ごみの有料化を進める。」との政策提言を行っています。こうした背景から、多摩地域においては、平成 30 年度までに既に 26 市中 24 市が家庭ごみ有料化を実施しています。

小平市においても、平成 26（2014）年 3 月策定（平成 30（2018）年 3 月改訂）の「小平市一般廃棄物処理基本計画」の中で、家庭ごみ有料化及び戸別収集への移行を重点施策の一つとして位置付け、令和元（2019）年度に、全量プラスチック製容器包装の分別収集・資源化とともに実施いたしました。

全量プラスチック製容器包装の分別収集・資源化については、小平・村山・大和衛生組合において、3 市が共同してプラスチック製容器包装及びペットボトルの処理を行うため、東大和市内に平成 31（2019）年 4 月 1 日からの稼働を始めた「小平・村山・大和衛生組合資源物中間処理施設」により、小平市の全量プラスチック製容器包装の分別収集・資源化が行えることとなりました。

また、小平市廃棄物減量等推進審議会からは、平成 28（2016）年 4 月に、「令和元（2019）年度での実施に向けて、市としての体制を整えた上で、実施内容について十分な検討・準備を進めること。」との答申を、平成 30（2018）年 2 月に、「市民に対して十分な周知を行った上で、家庭ごみ有料化及び戸別収集へ円滑に移行することを希望する。」との答申を受けています。

そうしたことから、小平市では、平成 29（2017）年 4 月に、『「家庭ごみ有料化及び戸別収集への移行」についての基本方針』を策定し、令和元（2019）年度を目途に家庭ごみ有料化及び戸別収集への移行を実施するとした方向性を定め、具体的な実施時期や有料化の対象範囲、手数料負担の仕組み等の詳細な事項については、実施計画にて定めることとしました。

実施計画については、小平市廃棄物減量等推進審議会等の意見を取り入れながら、実施内容についての検討を重ね、平成 29（2017）年 9 月に素案を策定しました。素案に対しては、市民説明会やパブリックコメントを実施し、広く市民から聴取した意見や要望を踏まえ、平成 30（2018）年 3 月に「小平市家庭ごみ有料化及び戸別収集への移行実施計画」を策定し、平成 31（2019）年 4 月 1 日から家庭ごみ有料化及び戸別収集へ移行しました。

(2) 家庭ごみ有料化に伴う手数料及び用途にかかる決算（抜粋）

①令和元（2019）年度 | 決算額

収入

家庭系有料ごみ処理手数料（ごみ）	544,050,300 円
計	544,050,300 円

支出

臨時職員賃金	2,076,720 円
資源とごみの収集カレンダー・パンフレット 等音訳・点訳謝礼	105,000 円
消耗品費	32,000 円

印刷製本費	1,316,140 円
市報特集号等印刷製本費	270,950 円
集積所パネコート設置	926,080 円
指定収集袋販売手数料	47,388,339 円
市報特集号全戸配布業務委託	703,790 円
資源とごみの収集カレンダー・パンフレット 等全戸配布業務委託	2,299,024 円
資源とごみの収集カレンダー・パンフレット 作成業務委託	7,430,400 円
指定収集袋減免に係る事務等業務委託	643,500 円
指定収集袋等製造・管理等業務委託	148,505,245 円
家庭ごみ有料化及び戸別収集への移行に係る コールセンター業務委託	4,388,256 円
指定収集袋等受注収納等業務委託	8,720,000 円
ごみ収集運搬業務委託（戸別収集増加分）	126,769,396 円
資源物収集運搬業務委託（戸別収集増加分）	52,589,874 円
不法投棄監視パトロール・収集運搬業務委託	1,496,880 円
3R 推進施策（資源循環推進事業）	237,555,556 円
3R 推進施策（食物資源資源化推進事業）	15,463,748 円
計	658,680,905 円

②家庭ごみ有料化に伴う手数料及び使途にかかる決算額推移

年度	平成 30 年度	令和元年度
歳入	128,861,100 円	544,050,300 円
歳出	102,013,161 円	658,680,905 円

※平成 30 年度は準備事業（歳入と歳出の差 26,847,939 円については、令和元年度の歳出超過分へ一般財源として充当）。

(3) 市民説明会及び出前講座等の実施

①市民説明会（全 29 回 4,321 人）

- ・平成 29 年度
全 12 回、843 人
- ・平成 30 年度
全 17 回、3,478 人

②出前講座等（全 335 回 18,249 人）

- ・平成 29 年度
全 50 回、2,139 人
- ・平成 30 年度
全 285 回、16,110 人

